

製品名: TH (リン酸化Ser71) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05553**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	TH
別名	TH; TYH; Tyrosine 3-monooxygenase; Tyrosine 3-hydroxylase; TH
遺伝子 ID	7054.0
SwissProt ID	P07101
免疫原	抗血清は、Ser40 のリン酸化部位周辺のヒトチロシン水酸化酵素由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

背景

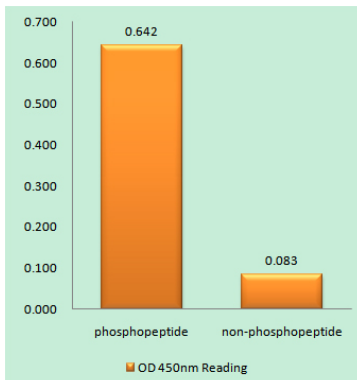
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、チロシンからドーパミンへの変換に関与しています。カテコールアミン合成におけ

る律速酵素であり、アドレナリンニューロンの生理機能において重要な役割を果たしています。この遺伝子の変異は、常染色体劣性瀨川症候群と関連付けられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが知られています。[RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性: L-チロシン + テトラヒドロビオプテリン + O(2) = 3,4-ジヒドロキシ-L-フェニルアラニン + 4a-ヒドロキシテトラヒドロビオプテリン。、補因子: Fe(2+)イオン。、疾患: TH の欠陥はジストニアの原因です。DOPA 応答性常染色体劣性 (ARDRD) [MIM:605407]。常染色体劣性瀨川症候群としても知られています。ARDRD は、乳児期または幼児期に発症する DOPA 反応性ジストニアの一種です。ジストニアは持続的な不随意筋収縮を特徴とし、しばしば異常な姿勢につながります。ARDRD の一部の症例では、乳児期にパーキンソン病様症状を呈します。他のすべてのジストニアとは異なり、ARDRD は L-DOPA に対する良好な反応を示すため、非常に治療しやすい疾患です。、酵素調節: リン酸化は触媒活性の上昇につながります。、機能: アドレナリンニューロンの生理機能において重要な役割を果たします。、オンライン情報: チロシン水酸化酵素への入り口、経路: カテコールアミン生成; ドーパミン生成; L-チロシンからドーパミン: ステップ 1/2。、類似性: ビオプテリン依存性芳香族アミノ酸水酸化酵素ファミリーに属します。、組織特異性: 主に脳と副腎で発現します。、

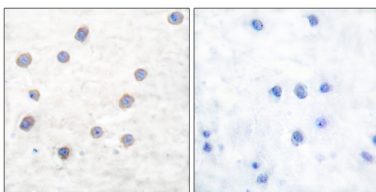
研究分野

チロシン代謝;パーキンソン病;

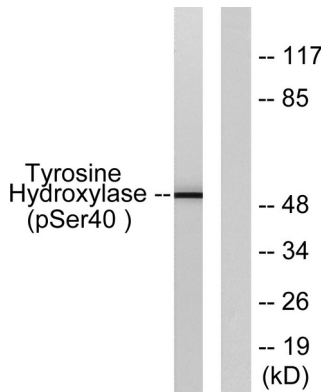
画像データ



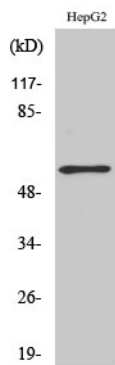
チロシン水酸化酵素 (リン酸化 Ser40) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



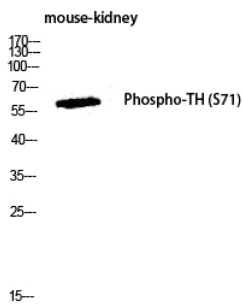
チロシン水酸化酵素 (リン酸化 Ser40) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



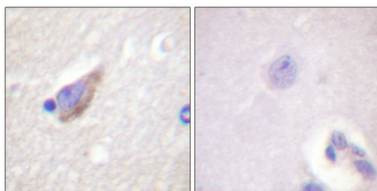
UV 30°処理した RAW264.7 細胞のライセートを、チロシン水酸化酵素（リン酸化 Ser40）抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 希釈の Phospho-TH (S71) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



リン酸化 TH (S71) 抗体を用いたマウス腎臓溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:1000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高压高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。